

岐阜市新庁舎 授乳室の壁画制作の取り組み

Project report of mural painting for the nursing room of new City Hall in Gifu

小川 直茂 奥村 和則 坂本 牧葉 深尾 茉里
OGAWA Naoshige OKUMURA Kazunori SAKAMOTO Makiba FUKAO Mari

Abstract

We have been working on a number of collaborative projects with companies and local governments as a practical educational program for Gifu City Women's College Department of Design for Contemporary Life. One of our representative projects is the mural painting at Gifu Municipal Hospital. Through our efforts in this project, we have acquired know-how regarding the visual presentation of space.

And this time, we challenged a new project, mural painting for the nursing room of new City Hall in Gifu. Therefore, we introduce the background and contents of the project in this paper. Then, we analyze the educational effects of this project on students.

Keywords : 産官学連携、壁画、パブリックアート

1. はじめに

岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科では、ものづくり・デザイン分野における産官学連携事業への積極的な取り組みを通じて、学生に向けて実践的なデザイン教育プログラムを展開している [注 1、2、3、4]。筆者らが所属するヴィジュアル専修においては、2015 年度より岐阜市民病院との連携事業として「こどものもり〜岐阜市民病院 小児病棟 リノベーションプロジェクト」に継続的に取り組んできた [注 5、6]。同プロジェクトは、小児病棟内や救急診療部の小児向け救急診察室などにおける壁画制作を中心とした内容となっており、患者の精神的苦痛や心理的不安を医療環境の面から改善することを意図したホスピタルアート活動 [注 7] と位置づけることができる。開始年度から 2019 年度までの 5 年間にわたって描いた壁画の合計面積は約 200㎡に及ぶ。

このようなプロジェクト実施経験を経て筆者らは今回、2021 年 5 月に開庁した岐阜市新庁舎 授乳室の壁画制作に携わる機会を得た。本稿では、この連携事業の経緯や制作プロセス、成果物など一連の内容について報告するとともに、教育活動としての分析・考察を行う。

2. 連携事業概要

岐阜市新庁舎は、岐阜市立中央図書館を中核とする複

合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」の南側に位置する。「市民に開かれた庁舎」をコンセプトとしており、高層階の展望スペースやイベント利用を想定した複数の交流スペースなどが整備されている。

多くの来庁者が利用する低層階（1 階～3 階）には、各階に 1 部屋ずつ授乳室が設置されており、これが本プロジェクトの実施対象となった。授乳期の育児は、これまで経験したことのない生活リズムへの対応を要求されるなど、親の身体的負担も大きい。市民に開かれ、市民に寄り添う友好的な庁舎を体現する観点から、新庁舎の開庁準備に従事する関係者の間で、利用者が温かみや安心感を感じられるような授乳室を実現したい、という意見が出された。

そのような経緯を経て、ホスピタルアート活動の制作実績を有する筆者らに、授乳室の空間演出に関する協力依頼が寄せられた。筆者らは依頼を受けて実施方法など連携に関する検討を行い、対応の目処がついたことから、連携事業への参画について合意した。

2020 年 1 月および 4 月に、筆者らおよび新庁舎開庁準備に従事する関係者の間でミーティングを開催し、連携事業の大枠を固めた上で壁画デザイン案の検討に入った。事業スケジュールについては複数年度にわたって実施する方式とし、事業初年度となる 2020 年度は庁舎 1 階の授

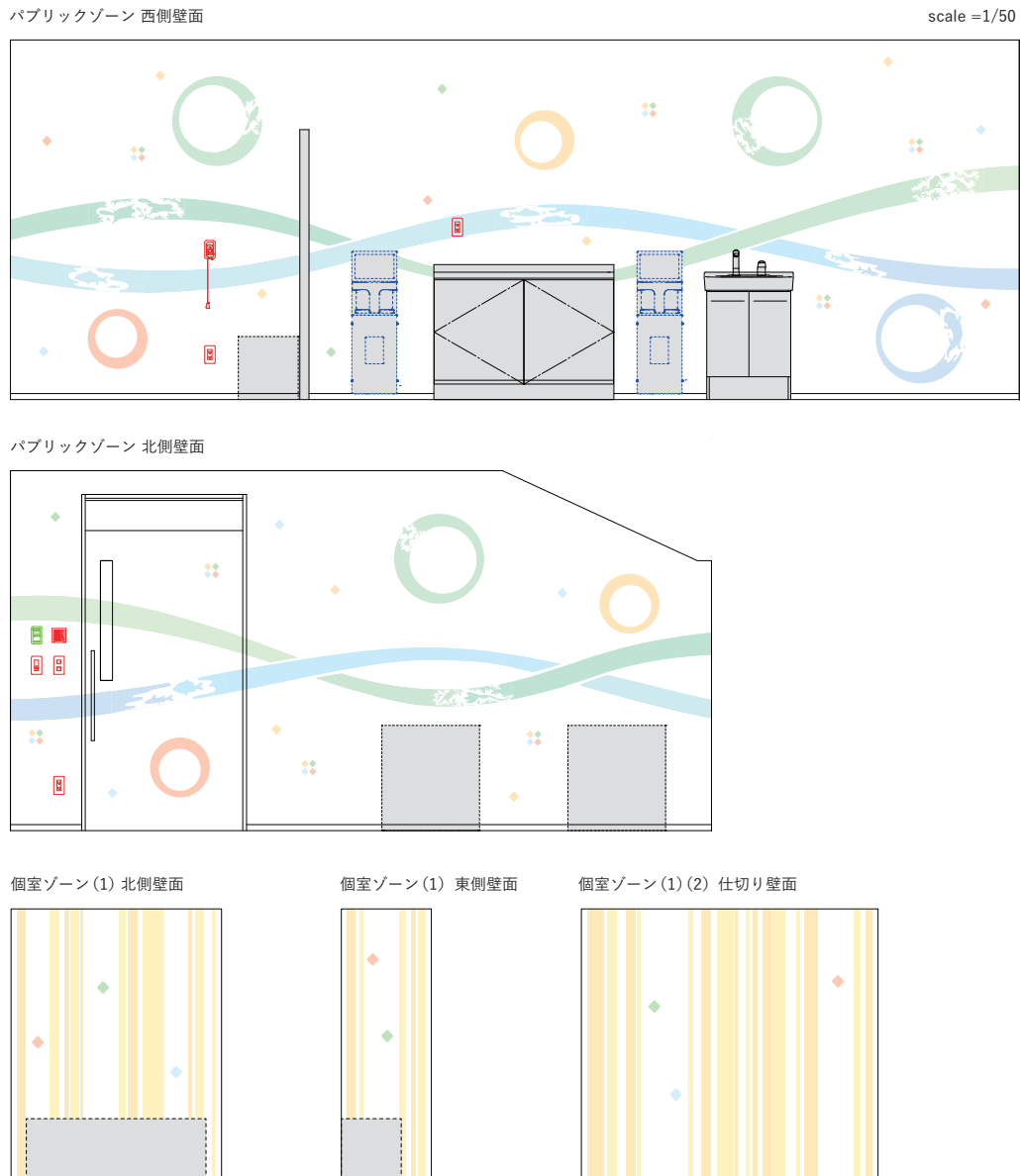


図 1. 壁画デザイン最終案（一部抜粋）

乳室内（壁面約 35㎡）および授乳室前の通路スペースを壁画制作エリアとして設定した。

3. 壁画デザインについて

壁画デザインの考案にあたっては、「リラクゼーション」「シビックプライド」の2つのキーワードを念頭に置いた。緊張感からの解放による落ち着きや安らぎの創出に加えて、行政施設に施される壁画として「利用者が地元への理解や愛着を深める契機とする」ことをめざした。壁画デザイン最終案（図1）の概要を以下に記す。

・造形および配色方針

利用者へのリラクゼーション効果を高める観点から、

主張の強い表現にならないよう配慮した。造形面では、余白を多く取り、情報量を削ぎ落とした抽象的な描画を行った。また、ペールトーンを中心とした淡い色調で全体をまとめることによって、心地良さを感じさせる配色としている。

・モチーフ

地元への理解や愛着を深めるため、岐阜のアイデンティティの視覚化を試みた。具体的なモチーフとして、金山や長良川をはじめとする岐阜の雄大な山川を設定した。2本のラインアートの表現によって、岐阜の山並みと川の流れを象徴的にあらわしている。

また、壁画の要所要所に、岐阜市内に生息する動植物

の具象的イラストレーションを配置することで、岐阜の自然に生きる生命の存在を印象づけるよう意図した。動植物のイラストレーションについては、過剰に主張することのないよう、リアルなフォルムによるシルエット調の表現を用いた。

授乳室南側の個室ゾーン（授乳スペース）については、一部の壁面に立ち並ぶ木々や差し込む陽光をイメージさせるストライプを描くこととした。スペースの用途に配慮し、他の壁面より彩色面積を多くして色面の密度を高めることによって、包まれる安心感を感じてもらえるよう意識している。

4. 壁画制作について

壁画デザインの考案と並行して、生活デザイン学科ヴィジュアル専修の1年生にプロジェクトへの参加を呼びかけたところ、16名の参加希望があり、筆者ら4名を含めた20名の制作体制で進めることとなった。

2020年12月14日に建設中の現場を見学に来て、授乳室の空間構成やスケール感を確認した（図2）。



図2 現場見学の様子

2021年1月8日に第1回制作ミーティングを開催し、資料やスタディ模型を使用して壁画デザインの方針および内容をプロジェクトメンバー間で共有した。また、動植物のシルエット調イラストレーションについて、学生が具体的な動植物の選定および原画作成を担当することとした。

2月2日に第2回制作ミーティングを行い、実寸大で投影されたプロジェクターの映像等を元に、壁画デザイン案の最終的な確認および調整を行った（図3）。

現場での制作作業は2月16日から開始した。作業に従事した日数は下書き3日、清書8日の合計11日間で、3月12日に制作作業が完了した（図4）。



図3. ミーティングの様子

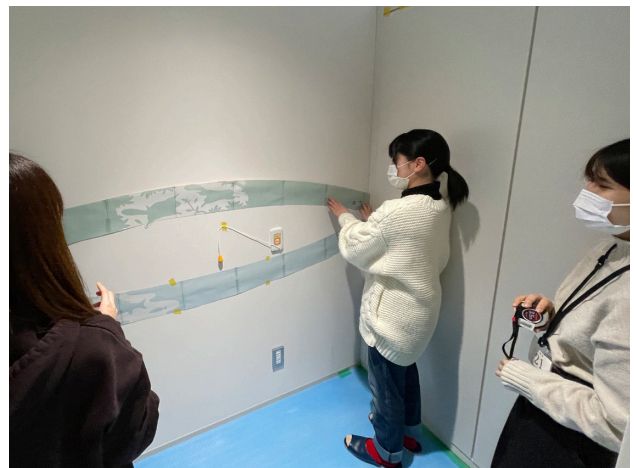


図4. 制作作業の様子

こうした経緯を経て完成した壁画を次頁（図5、6、7、8、9）に示す。

岐阜市新庁舎 授乳室の壁画制作の取り組み



図 5. 授乳室 パブリックゾーン壁画（北側、西側）



図 6. 授乳室 パブリックゾーン壁画（南側）

岐阜市新庁舎 授乳室の壁画制作の取り組み



図7.シルエット調のイラストレーション



図8.授乳室 個室ゾーン壁画（南西側）



図9.授乳室前 通路スペース壁画

本プロジェクトの内容は、毎日新聞（4月3日付朝刊掲載）、NHK（4月13日東海地方ニュースにて放送）、CCN（4月14日 エリアトピックスにて放送）、中日新聞（5月18日付朝刊掲載）など複数のメディアで取り上げられ、社会的に大きな注目を集めた。

5. 教育活動としての分析・考察

本プロジェクトの一連の経緯を踏まえ、教育活動としての分析と考察を行う。

これまで取り組んできた数々のプロジェクトと同様、本プロジェクトもまた、デザインと社会の関わりを具体的に知り、デザインの役割とその重要性について実感にもとづいた理解を得る貴重な機会になったといえる。学生にとって身近とは言いがたい育児のライフステージに思いを巡らせ、想像力をはたらかせる行為は、デザインの感性を磨くのみならず、参加した学生の社会性の獲得にも寄与したのではないかと推察される。

今回の壁画デザイン案は、岐阜市民病院の事例と比べて主張を抑えたテイスト（シルエット調、抽象的表現）を指向していたため、学生各々の個性を作品内に反映させることが難しく、それが制作時のモチベーションに影響しないか懸念していた。しかし結果的には、ほとんどの学生が前向きな姿勢で集中して制作に取り組んでおり、成果物の品質も高い水準に到達していた。完成後に学生に対して行ったヒアリングでは「シンプルなデザインゆえに精度が求められ、美しい仕上がりを目指して丁寧に作業することを意識した」といったコメントが見られ、個性の表出とは異なる部分にモチベーションを見出して制作作業に従事していた様子がうかがえた。

6. おわりに

本事業は2021年度および2022年度にも引き続き実施される予定である。事業への取り組みと本稿による分析・考察を通じて得た知見を元に、実施体制のさらなる最適化を図り、地域貢献活動／教育活動としてよりいっそうの成果充実に繋げていきたい。

【謝辞】

本プロジェクト実施の機会を与えていただいた、岐阜市 行政部 新庁舎開庁準備課（現管財課）の山本哲也様、加藤浩司様はじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

【注・参考文献】

1. 小川直茂, 奥村和則: 地域活性化に向けたデザイン支

- 援 - ぎふベリリーパッケージデザインの取り組み -, 岐阜市立女子短期大学研究紀要 第 62 輯, 133-136, 2013
2. 小川直茂: 短期大学における産官学連携事業実施にあたっての諸課題の考察, 岐阜市立女子短期大学研究紀要 第 64 輯, 83-86, 2015
3. 小川直茂, 奥村和則, 坂本牧葉: 産学連携事業による「スポーツウエアブランド Razzoli・VI デザイン」の取り組み, 岐阜市立女子短期大学研究紀要 第 65 輯, 63-66, 2016
4. 小川直茂, 中谷友机子, 柴田佐和子: 産学連携事業を通じた地域・社会貢献に関する一考察, 岐阜市立女子短期大学研究紀要 第 69 輯, 19-22, 2020
5. 小川直茂, 奥村和則, 坂本牧葉: 「こどものもり」プロジェクト～岐阜市民病院 小児病棟 壁画制作の取り組み, 岐阜市立女子短期大学研究紀要 第 66 輯, 81-86, 2017
6. 坂本牧葉, 小川直茂, 奥村和則: 課題解決型学修の教育効果に関する分析・考察 - ホスピタルアートを事例として -, 基礎造形 028, 31-38, 2020
7. アートミーツケア学会 (編): 病院のアート～医療現場の再生と未来, アートミーツケア学会, 2014

(提出日 令和3年8月13日)